



かけがえのない水環境を未来へ 名水サミットin美郷

全国の名水百選の所在する市町村からなる全国水環境保全市町村連絡協議会の全国大会「名水サミットin美郷」が7月1日に町公民館で行われ、全国の市町村関係者や町民の皆さんなど約400名が参加しました。

第25回の節目に 美郷町で開催

現在、美郷町には126カ所の清水が確認されており、六郷湧水群は昭和60年に環境庁（当時）から「名水百選」に選定されました。六郷湧水群に豊富な水をもたらす七滝地区の水源地は「水源の森百選」に選定されるなど、豊かな森と水に恵まれた風土を今に伝えています。

今年は何連が定めた国際森林年であり、サミットも第25回の節目にあたります。この記念すべき年に美郷町で行われたサミットで、参加者は講演やパネルディスカッションを通して「水と森の大切さ」や「恵まれた環境のありがたさ」について認識を深めました。

来年度の開催地は 群馬県片品村に決定

サミットでは、昨年度開催地の佐

賀県小城市の江里口秀次市長による開会宣言に続き、主催者を代表して協議会長の松田町長があいさつ。

「豊かな自然の恩恵を次世代に引き継ぐためには、今を生きる私たちが一生懸命努力をしなければなりません。先人たちの努力によってもたらされた恩恵を次世代にバトンタッチするための努力や実行を誓い合いたしましょう」と参加者に力強く呼びかけました。

引き続き行われた議事では、来年度の開催地を群馬県片品村とすることを満場一致で決定しました。



▲あいさつを述べる松田町長

■大会宣言を採択した後、互いに手を取り合い、水環境を次世代に引き継いでいくことを誓い合いました。

写真左側から、環境省の関荘一郎審議官、松田町長、群馬県片品村の千明金造村長、佐賀県小城市の江里口秀次市長。

青森大学教授・エッセイストの 見城美枝子さんが基調講演

名水シンポジウムでは、青森大学教授でエッセイストの見城美枝子さんが「21世紀は水と森の時代」と題して基調講演を行いました。見城さんは「20世紀は石油の時代といわれ、石油を獲得するために現在も戦争が続いています。しかし、21世紀は地球温暖化で水不足や砂漠化が大きな問題になっています」と述べ、豊かな水環境を守るためにも森林の保護が大切であることを訴えました。

また、千屋小学校の児童たちが取り組んでいるビオトープについて触れ、

「都会に住んでいると周りはコンクリートだらけで、このような自然環境があることを羨ましく思います」と話しました。

講演の最後には、福島第一原発の事故で避難区域となっている地域の状況を映像で紹介。見城さんは映像を公開することに悩んでいたようですが「水環境を守っていくためには、こうした事実こそ伝えるべきだ」と見えていただくことにしました」と話しました。避難区域に取り残された牛や豚などが、食糧や水が無いため苦しんでいる映像が流されると、会場からはため息が漏れました。見城さんは「美郷町の美しく安全な地下水をどう守っていくか、子どもたちはどう残していくのかは、とても大切なテーマです」と述べました。

水環境学習モデル校 学習発表会

シンポジウムでは、町の水環境学習モデル校である千屋小学校の6年生8名と六郷中学校の2年生6名が総合的学習の時間で学んできた成果を発表しました。たくさんの観客を前に堂々と発表する子どもたちに、会場からはたくさんの拍手が送られました。（関連記事↓4・5ページ）



見城美枝子さん

また、パネルディスカッションでは、環境省水環境審議官の関荘一郎さんをコーディネータに、佐賀県小城市の江里口市長、群馬県片品村の千明村長、松田町長ら3名が、それぞれの自治体の取り組みを紹介したり、水環境についての熱い思いを語りました。

シンポジウムの最後には、千明村長が次期開催地としてのあいさつと大会宣言を行いました。「水環境学習を通じた意識啓発に努めること」「森をはじめとする自然環境の保全に努めること」「水環境を未来に引き継いでいくこと」を内容とする宣言が読み上げられると、会場からたくさんの拍手が送られ、参加者全員で賛同で採択されました。

オプションツアーで 美郷町の自然や文化を満喫

7月2日、県外から全国大会に参加した皆さんを対象にオプションツアーが行われました。ツアーには34名が参加し、観光ボランティアなどの協力のもと六郷湧水群や「後三年合戦」古戦場などを巡り、美郷町の自然や文化を満喫しました。



造り酒屋の見学。
美郷の美味しいお酒に舌鼓。▶

▼物産販売コーナー

町の特産品も大人気。県外からの参加者が地サイダーや漬物を買求める姿が見られました。



▲名水百選写真展

南ふれあい館ではさまざまな展示コーナーが設けられ、たくさんの皆さんが足を運びました。

